

「共生の(ための)言語教育」に向けて

境 一三

1. 母語教育と外国語教育の連携

- 1) 言語能力を、母語と外国語を峻別せず、むしろ一体のものとして捉える。
- 2) 国語科と外国語科の教員が密な連携を取る。
- 3) 言語系教員と他分野の教員が連携を取る。

2. 英語教育と(いわゆる)第2外国語教育の連携

- 1) 英語教育を、広く言語教育の中で位置づける相対化の視点を強化する。
- 2) 英語教員の他言語教育への興味・関心を喚起する。
- 3) 第2外国語の中での「パイの取り合い」をやめる。

3. 日本社会における「共生の(ための)言語教育」の視点の共有

- 1) 「受容の外国語」から「発信の外国語」への転換が推進されつつある現在、さらに「共生の(ための)外国語」の視点も共有する。
- 2) 異なる言語・文化を持つ隣人が増えつつある日本社会で、さまざまな人々が平和共存できるコミュニティを形成するための言語教育を推進する。
- 3) ((マイノリティーを含めた)他者への、他言語・文化への、学びへの etc.)「気づき」と「自己の開き」に重点を置いた教育を推進する。

(慶應義塾大学経済学部・外国語教育研究センター)